

## スポーツ・武道実践科学系

氏名 **はま だ はつ ゆき** 教授



### 主な研究テーマ

- 柔道における競技力向上論・指導法の構築、柔道療法の研究・
- 武道国際化における課題と対策、体と健康

### 平成27年度の研究内容とその成果

柔道国際化における課題と対策及び競技力向上・普及発展、指導法の構築に関する研究を行いました。国内および海外から多くの柔道家を受け入れ、柔道指導に関する講義や国際交流を行いました。また、指導者として各国に招聘され、日本の伝統的な基本技術を中心に応用技術までの指導を実施しました。

体と健康、知的障害者を対象とした柔道療法に関する学会発表等を実施し柔道を通して社会貢献活動を行いました。さらに、武道必修化に向けた指導者講習会、わかりやすい柔道授業を行うための教材作成も試みました（初転君柔道衣およびシート・トライアングルセオリーシート）。

#### 1. 柔道指導・研究調査活動

- 1) フランス・ジャンジョレス大学に招聘され、学生・ツールズ市民を対象にしたシンポジウムにて講演。
- 2) フランス・ブーシュ＝デュ＝ローヌ県柔道連盟から招聘され、柔道指導。
- 3) ドイツ柔道連盟指導者9名、フランス

柔道連盟指導者1名を本学に受け入れ柔道指導。

- 4) 「第5回松山城東ライオンズクラブ柔道錬成大会—濱田初幸記念大会—」を開催、中学生220名が参加し青少年健全育成活動。
- 5) 「南日本新聞を読んで」の欄にて、4回に渡りコラムを執筆。
- 6) えひめ国体指導者資質向上講習会、愛媛県警察本部、日の丸柔道キッズにて講演。
- 7) 日本武道学会理事、日本武道一般社団法人 障害者武道協会 一般理事とし活動。
- 8) 関連実践科目「柔道」を担当以降（平成15年度）、863名の講道館柔道初段合格者を輩出（通算）。

#### 2. 研究活動

- ・前回り受身習得用柔道衣・「初転君」の科学的エビデンスに関する研究（科学研究費助成事業：研究代表者）
- ・武道のグローバル化と武道必修化における教育的価値の評価

(科学研究費助成事業：研究分担者)

Academy of Sciences, 1348, 141-149, 2015 (共).

### 3. 学術研究論文

- 1) 初転君を用いた指導が柔道未熟練者の前回り受身に及ぼす即時的効果, スポーツパフォーマンス研究, 7, 247-254, 2015 (共).
- 2) フランスの指導者資格制度を考える, 武道学研究, 48, 2, 89-112, 2015 (共).
- 3) 小学生柔道選手における身体組成指数の検討, 武道学研究, 48, 1, 11-16, 2015 (共).
- 4) 天皇陛下誕生日祝賀会における「柔道の形」演武及び実技指導 – インドネシアからの報告 –, 鹿屋体育大学学術研究紀要, 51, 71-74, 2015.
- 5) Synthesis of Resveratrol Glycosides by Plant Glucosyltransferase and Cyclodextrin Glucanotransferase and Their Neuroprotective Activity, Natural Product Communications, 10, 6, 995-996, 2015 (共).
- 6) Synthesis of  $\epsilon$ -Viniferin Glycosides by Glucosyltransferase from *Phytolacca americana* and their Inhibitory Activity on Histamine Release from Rat Peritoneal Mast Cells, Natural Product Communications, 10, 6, 1017-1018, 2015 (共).
- 7) Synthesis and pharmacological evaluation of glycosides of resveratrol, pterostilbene, and piceatannol, Annals of the New York

### 4. 学会発表

- 1) 中学校における武道教育の課題 – 質的分析によるアプローチ –, 日本体育学会第66回大会, 2015 (共).
- 2) 明治16年の「撃剣柔術調査」について – 柔術・当身技の調査に着目して –, 日本武道学会第48回大会, 2015 (共).
- 3) フランス人柔道修行者の柔道に対する意識構造について – 柔道に対する態度に着目して –, 日本武道学会第48回大会, 2015 (共).
- 4) 柔道の後ろ受身を模擬する頭頸部数値モデルの開発, 日本武道学会第48回大会, 2015 (共).
- 5) 柔道受け身時の頭頸部変位と頭部傷害基準との関係, 日本武道学会第48回大会, 2015 (共).
- 6) What students have learned from budo: An evaluation of budo education, 12th European Association for Sociology of Sport Conference, 2015 (共).

### これからの研究の展望

柔道初心者に対して、「安全でわかりやすい」柔道指導方法や高度な競技力の向上に繋がる「効果的なトレーニング、練習方法」を独自の理論で構築、柔道の普及発展に貢献していかなければならないと考えています。特に科学研究費補助金を獲得した、

前回り受身学習用柔道衣「初転君」の効能を科学的に検証していきます。(初転君及び初転君シート・トライアングルシートの開発)。

競技者あるいは世界選手権・オリンピックコーチとしての経験から学んだ「勝つ」、また「強くなる」といった観点から国際レベルで戦うことができる選手育成を目指した強化のための実践的研究も行っています。

地域の柔道会（肝属地区柔道会）と連携を図り、鹿児島国体に向けた選手強化育成、少年を対象にした「級制度」の審査システム、内容に関する共同研究を実施しています。

柔道・武道の発展を鑑み、国際性を身につけたグローバル化社会に貢献し得る人材養成を目指し、国際交流による外国チーム、選手の受け入れや海外派遣を実施していきます。

さらに、生涯学習の視点から「講道館柔道の形」、「知的障害者の柔道指導方法」「中高一貫教育における武道の推進」に関する研究も着手検討中です。特に、共同研究を進めている「仲野式柔道療法」は、テレビ等で大々的に報道されたことから、知的障害者の自立支援に向けて、科学的データに基づいた検証が求められています。また、さらに健康に関する研究の一環として、スポーツ飲料に含まれている成分の代謝研究から「有効成分の解明」や「骨強度に関する研究」など生理学的研究も学外機関との連携を図りながら究明していきたいと考え

ています。大学改革の波が押し寄せている中、より一層教育、研究の研鑽、社会貢献に寄与していかなければと考えています。



ジャンジョレス大学に掲示されたシンポジウム開催ポスター



ツールズにて柔道指導